

17. Ga シンチで高集積を示した慢性膵炎の 1 例

奥泉 譲 上田 浩之 左合 直
野口 正人 (福井赤十字病院・放)
広瀬 由紀 (同・外)

症例は 59 歳男性。上腹部痛を主訴に近医を受診した際、アミラーゼの上昇を認めたため本院を紹介受診。画像上、超音波では膵頭部に均一な低エコーの腫瘤とその末梢の主膵管の拡張があり、その腫瘤はダイナミック CT では徐々に弱く造影され、MR では T1/T2 ともに低信号、また血管造影では異常はなかった。以上より、悪性リンパ腫を疑い Ga シンチを行ったところ腫瘤に一致して強い集積を認めたため、悪性リンパ腫という診断のもと、全身化学療法がされた後、膵頭十二指腸切除術が行われた。病理診断は腫瘤形成性慢性膵炎であった。われわれが検索しえた範囲では、慢性膵炎に Ga が限局性集積を示したという報告はなく、Ga シンチを含めた総合画像診断を行ってもこの症例の鑑別は困難であった。

18. 骨シンチグラフィにおける陰性病変の検討

今枝 功 仙田 宏平 長縄 慎二
大島 治泰 佐久間隆廣 青島 崇
(国立名古屋病院・放)

平成元年 11 月 1 日から同 7 年 1 月 17 日まで施行した骨シンチ 2,261 症例 (3,188 検査) 中、陰性骨病変を示した症例は 251 であった。発生機序は、骨転移 101、手術後 50、放射線照射後 39、骨壊死 36、原発性骨腫瘍 23、その他 2 であった。ドーナツ状、輪状、紡錘状陰性像はそれぞれ 9、7、2 であり、発生機序は骨腫瘍のみであった。1,152 症例の骨転移における陰性病変発生頻度は全体で 8.8% であった。疾患別陰性病変発生頻度は、肝細胞がん 61.5%、腎がん 25%、甲状腺がん 22.2%、結腸がん 20%、肺がん 12.2%、乳がん 11%、胃がん 7.6%、前立腺がん 3.8% であった。

陰性病変発生機序は、従来骨転移が多いとされてきたが、手術後、放射線照射後、無菌性骨壊死にも高頻度で陰性病変が認められた。